

◆第4回(仮称)磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会 意見・提案等～考え方・対応

令和4年3月25日 第5回条例策定検討委員会資料

No.	意見・提案等	考え方・方向性	対応(予定含む)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・今後説明時等に行政と共に委員も出向き、市民の声を直接聴くこともできたらいい。 ・各委員が条例制定に対して喜びや楽しみを感じていただくことが大事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員が検討委員会以外の場・機会を通じ条例案の検証ができること、条例制定に関わることにやりがいを持ってもらうことは大変意義あること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会、研修会、勉強会などの機会に、委員も参加できるよう案内するとともに、市民との対話の機会を生かしていく。 ・随時必要な情報提供・情報共有に努めている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方に期待を持っている。それぞれの立場で参加、検討を進められるといい。 ・解説書(案)を活用しながら関係諸団体と意見交換したりしてもいいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解説書(案)をオープンにした形で、利活用することは大いに奨励するところ。その中で意見等をもらえればなお有難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の範囲における条例啓発勉強会等の企画実施を促す。 ・自治会連合会役員や自治会長を中心に解説書(案)アンケートを実施。市民活動Cや各交流Cへチラシ・解説書(案)冊子を配架 ※日詰委員長講演会(R4.2.12:市民活動C主催)⇒まん延防止期間中中止(次年度開催検討)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会等への参加対象範囲に市PTA連合会なども加えるなど拡大してもいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代を対象にしていく視点は重要であり、必要な配慮を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会等へ市P連他、若い世代等も必要に応じて案内する。 ※R3.7.29 川北秀人氏講演会開催(商工会議所青年部会・JC等対象)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・川北氏や里山くらし LABO などに条例素案を見てもらい、アドバイスを聞いてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりに関して幅広い知識を持ち、本市と関りのある方の助言等は有難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイミング等を考慮した中で検討していく。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・第12条(仮称)条例基本委員会の位置付けは重要である。 ・メンバーに若い世代を入れるなど、選考もよく考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と条文に乖離が生じ、条例改正の必要がある場合等、必要に応じて委員会開催を想定。(メンバー選考は十分配慮が必要) 	<ul style="list-style-type: none"> ・条例素案の検証を進めていく中で、各委員のご意見等も伺いながら引き続き検討していく。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に興味のある大学生もいると思うので、オンラインの若者向け講座等があれば20代や学生等も対象にしていくのもいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者等、幅広い世代への啓発や市内の大学等との連携は、将来的に見ても有意義。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡産業大学等へ必要に応じて呼びかけていく。 ※県農林環境専門職大と市財産区が区有林活用協定締結(R3.7.15)実習への財産区の協力、学生の財産区行事への参加等期待

◆第4回(仮称)磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会 意見・提案等～考え方・対応

7	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会等を聴講していく中で、今年度末予定の検討委員会で素案をまとめていくスケジュール感でよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間をかけて」検討する中で、目標時期を定めていくが、今年度末のとりまとめは想定していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年4月制定(改正)を目指し、検討委員会の開催時期や素案とりまとめのスケジュールを決めていく。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・解説書(案)に図を表示するのはわかりやすい。ただ、地域づくり協議会の組織図の例示中「福祉・こども部」が一括りになっているのが気になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織図はあくまでもモデル図であり、参考例として掲載しているものという考え。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ、「福祉・こども部」は分けることを前提に、あらためて現組織の実情も確認しながら、解説文を含め必要な見直しを図っていく。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・条例案では「自治会連合会」と「地域づくり協議会」が二本立て組織となりわかりにくく感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現条例素案では、基礎自治会の定義・役割を規定しており、連合会の役割まで規定するものではない考え。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の自治会連合会組織のあり方については、連合会内の組織検討会議の動向も注視していく。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」の観点からすると、議会の役割、関り方を条例に含めることは重要。 ・議会基本条例は、議員の立場からの理念条例であり、あくまで議会・議員を縛るもの。この条例自体はまちづくりに寄与するものではない。 ・行政・市民・議会・事業所等が相互に役割と責任を果たさなければ真の意味の基本条例にならないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内検討委員会の中でも話は出たが、現段階では議会の役割等を含めることまでは考えてなく、また昨年度の策定検討委員会でも具体の協議はしてこなかった。 ・委員提案の内容や議会基本条例の意義等を踏まえ、考え方を整理しておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例と本条例の位置づけ、まちづくりと議会との関わり、盛り込む必要性の有無、盛り込む場合の内容の範囲等、も踏まえ、他市町の状況を含めて検討、整理していく。 ・議員対象の研修会等も企画できれば、ご意見等を伺うことも考えながら、引き続き策定検討委員会でも協議をしていく。
11	<ul style="list-style-type: none"> 「市民自治」という言葉が随所に見られ、理念条例として考えるなら、名称は「磐田市 市民自治基本条例」という 名称でいいかとも思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民自治基本条例」という名称を市民が少しでも受け入れてくれるか、内容をイメージできるかがカギと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名称も条例の内容とともに、引き続き検討し、策定検討委員会でも協議していく。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・「協働のまちづくり」という言葉はある意味難しく、何となく一緒にやればいいぐらいの感覚しか持たなくなってしまうのが怖く感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの「協働」を尊重しながら、今後も市民皆で協力し合い、更に前へ進む姿勢や考え方が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会や研修会等を含め、条例検討過程を通じ「協働」の意味を再認識しながら「総動」等新たな考え方も示していく。

◆第4回(仮称)磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会 意見・提案等～考え方・対応

13	<ul style="list-style-type: none"> 市内の地域づくり協議会には、進み具合はともかく温度差がある。様々な団体との協働を通じて、縦割りから横割りの組織にしていくため、今後も丁寧に理解してもらおうよう活動していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民と様々な団体等が、相互に協力し支え合うことが重要。特定の個人や組織・団体を特別視するのではなく、横の連携に配慮しながら、地域づくりを進めることは今後も必要なことと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民や自治会、地域づくり協議会、事業者、市民活動団体等は、どれも地域づくりに欠かせないものであるという視点を持ちながら、条例検討を引き続き進めていく。
14	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり協議会組織図の「福祉・こども部」は分けた方がいいと思う。 不登校やひきこもり、発達障害の子供を育てている保護者(主に母親)と話す機会もあり、子育ての仕方や苦労も人それぞれ。条例素案第11条の人材育成・確保中に子育ての気持ちへの応援、地域からの応援、バックアップしていくような文言が入るといいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織図の件は、三輪委員の考えと同様。 委員の考えや思いを受け入れながら、様々な市民の実情があることを踏まえ、「人づくり」、「相互理解と協力」を進めていくことは大事なことと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員の思いも踏まえ、条文や解説書へ必要な考え方や文言が含まれるか、全体のバランスも見ながら条例検討を引き続き進めていく。
15	<ul style="list-style-type: none"> 全体を見ていて、課題解決、苦労していることなど、何か暗く感じてしまう。「ニーズに応える」、「夢」とか、皆で達成していこう、というようなイメージがいい。柔らかく次に進んでいけるような言葉があった方が、何となく明るく 未来に希望が持てそうな気がしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員の視点は尊重すべき点であり、環境の変化がある中、何事にも柔軟な姿勢とプラスイメージを持ち続けることは、理念を示す視点からも大切なことと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員の思いを踏まえ、条文や解説書への適切、適当な文言表現等が可能か、全体のバランスも見ながら条例検討を引き続き進めていく。
16	<ul style="list-style-type: none"> 市役所内でも、条例の啓発・理解を深めるためにも、横のネットワーク・他課との連携を進めていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 庁内連携は欠かせないところであり、これまでも庁内関係部署による庁内検討会の開催、福祉分野と地域づくりのあり方について、関係課等と情報共有等を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、庁内検討会の開催をはじめ、持続可能な地域づくりのあり方も含め、他課と連携を深めながら取組みを進めていく。